



## 答 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ始め、暖かな春の訪れを感じられる季節となりました。

本日は教職員の皆様をはじめ、多くの皆様のご臨席の下、このように盛大な卒業式を催していただいたことに、卒業生一同心より御礼申し上げます。また、船田理事長並びに渡邊学長、御来賓の皆様、在校生より、温かい祝辞いただきましたこと、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。

時に厳しく、熱心に指導してくれた先生方、共に学び、多くの時間を過ごした学友、先輩、後輩の皆さん、そして、私たちを育ててくれ、このキャンパスで学ぶ機会を与えてくれた両親、家族の皆さんには感謝の念がつきません。今日まで本当にありがとうございました。

思い起こせば四年前、これから始まる大学生活に不安と期待を抱きながら、作新学院大学の門を潜りました。入学した当初、新型コロナウイルスも相まって、入学早々の休校措置やオンライン授業の実施など、今までとは異なる授業形態や、相談する相手も少ない中、全てが未知に囲まれた環境に戸惑いを覚えました。それでも、その環境をチャンスと捉え、アルバイトや資格取得、趣味など様々な挑戦をした人も多いと思います。少なくとも、ここにいる卒業生はこの過酷な環境の中で挫折することなく、乗り越えた上でここに立っています。この四年間の経験は私たちにとってかけがえのない時間であり、これからの人生の糧となっております。

本学で過ごしたこの四年間で私が大切にすることは、「当たり前のことを当たり前にする」です。これは、この作新学院大学で勉学に励める貴重な機会を無駄にせず、学内にとどまらず、様々なことに挑戦し自分の糧にしたいと考えていたからです。この目標達成のため、「やるべきことは後回しにしないこと」「今まで避けてきたことを積極的にやること」などを心がけました。高校時代、学業を疎かにしてしまった私は、一年次から授業態度や提出物への取り組みなどに気を付け、日々の学業に臨んできました。四年間それを貫いてきた結果として、今の私がこの場に登壇しております。決して後悔がないとは言えませんが、最後までやり切った気持ちでこの場に立っております。

私たちは、四月から新しい環境でそれぞれの道を歩むこととなります。今後道は違えども、皆社会人の一員となり、新たな環境に身を置き、今まで以上に覚悟を持って物事に取り組む必要があります。困難に直面した時、大学で学んだ内容が必ずしも直接役に立つとは限りません。しかし、この四年間で得た知識や経験は物事に対する視野を広げ、困難に打ち勝つための糧となることでしょう。

本学の建学の精神は「作新民」であり、私たちは、「時代の変化にきちんと対応し、自らを常に新しくできる人材」として育てられたと自負しております。今の社会環境は、入学当初から流行している新型コロナウイルスに加え、各地での戦争・紛争やAIの発展など目まぐるしい変化をみせております。今の時代だからこそ、「日々に自らを新しく」していく必要性がより高まったといえます。私たちは、自らに降りかかるこれらの問題を対処しながら今後も様々なことを学び、より一層努力していくことをここに誓います。

終わりに、今日まで私たちを指導してくださいました諸先生方、学生生活を支えてくださいました職員の皆さま、並びに、私たち若者に学びの場と機会を与えてくださったすべての皆さまに感謝の意を表明したいと思います。そして、皆様の御健康と作新学院大学のますますの御発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

令和六年三月十七日  
作新学院大学 経営学部  
第三十二期卒業生代表 高橋 佳宏